

令和5(2023)年度 事業報告書

NPO 法人森からつづく道

I. 概要

当団体は、2016年度よりオオキトンボをシンボルとして北条地域の里地の生物多様性の保全活動に取り組んでおり、2017～2019年度の「風早オオキトンボの里づくりプロジェクト」、2020～2022年度の「オオキトンボを育む里地を知る・保つ・伝える・つなげるプロジェクト」を展開し、オオキトンボの生活史やため池の水管理が発生に大きく関係しているなど多くの知見を得た。2023年度は羽化殻調査・産卵調査・水位計測を継続するとともに、発生状況をため池管理者に報告した。また当団体としてもため池管理に貢献するため、年2回の草刈りに参加した。さらに本種生息のコアとなっているため池を校区にもつ河野小学校の3年生に対し、7月11日に生活史の解説とヤゴの飼育・羽化観察、10月17日に産卵観察会を継続して実施した。

北条地域「風早活性化協議会（現 風早まちづくりネットワーク）」の活動として、松山市鹿島の展示施設「かしまーる」の植物標本の老朽化に伴う入替を実施した。

2023年度は、松山市から自然環境学習業務（まつやま自然ネットワークの運営）を受託し、環境学習として「アジサイの謎と魅力」「増加するニホンジカ 共生は可能か?」「知ろう! 楽しもう! まつやまの花ツバキ」などを、自然観察会として「公園で自然遊び」、「島たんけん 中島バスツアー」「野鳥観察in道後公園」などを実施した。また、情報発信として「しぜんネットだより」を隔月で発行（9000部）し、市内の全小学校や各児童館などに配布するとともに、SNSでの自然情報の発信、まつやまRe・再来館での展示、まつやま環境フェア出展などを行った。

サイエンスカフェえひめは、第40回：5月23日、「アカマツ盛衰記」（松井宏光）、第41回：2月20日、「不思議な生きもの、変形菌の世界」（川上新一氏）を開催した。また、愛媛県「三浦保」愛基金助成事業として、スーパーサイエンスカフェを実施した。第1回は9月17日、「身近な自然の魅力・課題を共有する機会づくり、手法」をテーマに、講演「身近なキセキに会いに行こう」（横山昌太郎氏）と事例報告（藤江直子氏）、第2回は11月19日、「地域資源を活用する事業の創出による、持続可能な地域づくり」をテーマに、講演「地域と自然の両方が賑わう里山との新しい関係づくり」（白川勝信氏）と事例報告（山本貴仁氏）を行った。また、10月29日に、エコツアー「希少種・オオキトンボの産卵観察とブナの森・高縄山散策」を開催し、オオキトンボと里地の環境について紹介するとともに、えひめ森の案内人会の協力を得て、里地の背後にそびえる高縄山を散策し、高縄山の魅力とシカの増加による食害の現状を知ってもらう機会となった。

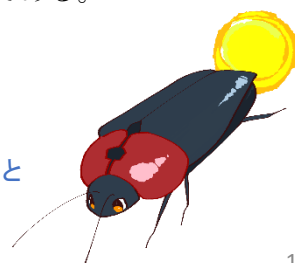
日本農業遺産「愛媛・南予の柑橘農業システム」については、愛媛県からの依頼を受け、世界農業遺産申請のために、農業生物多様性調査、民俗・歴史調査などを行った。

また、本年度はこれまでの活動を社会的に評価いただくことができた。2024年2月16日、オオキトンボの保全を中心とした活動が、第20回三浦保環境賞大賞（選考：三浦保環境賞実行委員会）を授賞するとともに、あいテレビによって活動の様子が放映された。

当団体は「松山SDGs推進協議会」と「ローカルSDGs四国」に参加しており、生物多様性の保全について、新たな戦略や施策との連携を模索していく方針である。

【運営した主な事業】

- 1 オオキトンボ保全プロジェクト
- 2 サイエンスカフェえひめ
- 3 まつやま自然ネットワーク運営（松山市委託事業）
- 4 生物多様性保全と持続可能な地域づくりを展望するスーパーサイエンスカフェとエコツアーの実施（令和5年度愛媛県「三浦保」愛基金助成事業）
- 5 「愛媛・南予の柑橘農業システム」農業生物多様性等調査・研究業務
- 6 その他必要とする事業



II. 各事業報告

1. オオキトンボ保全プロジェクト

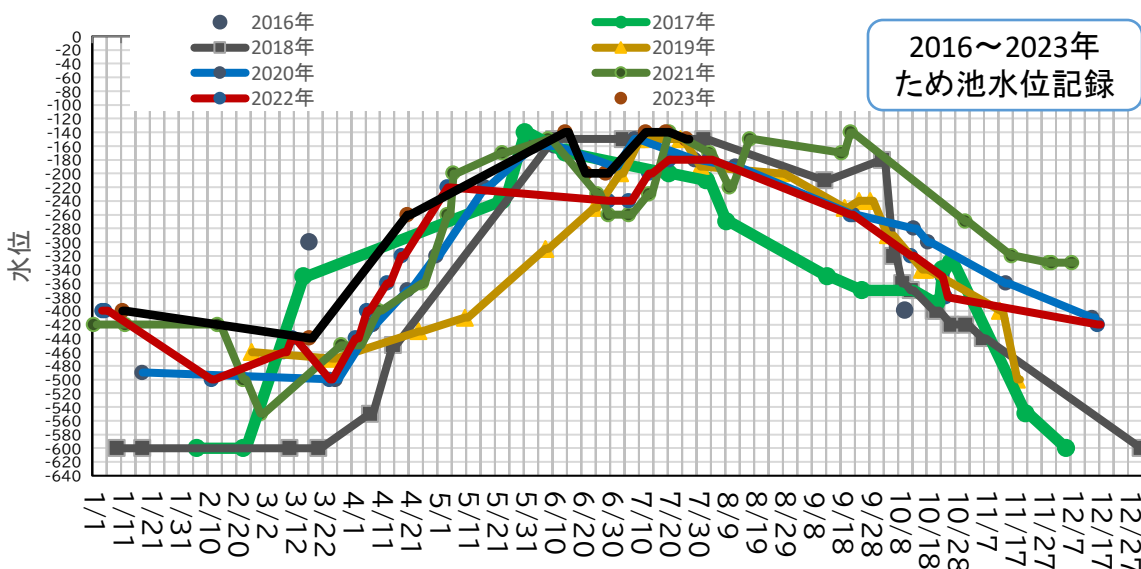
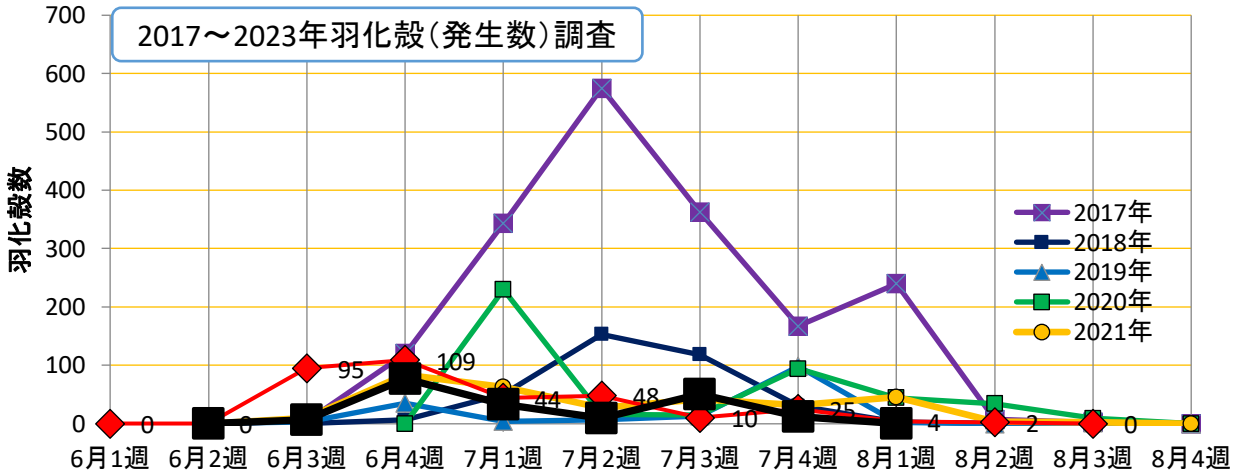
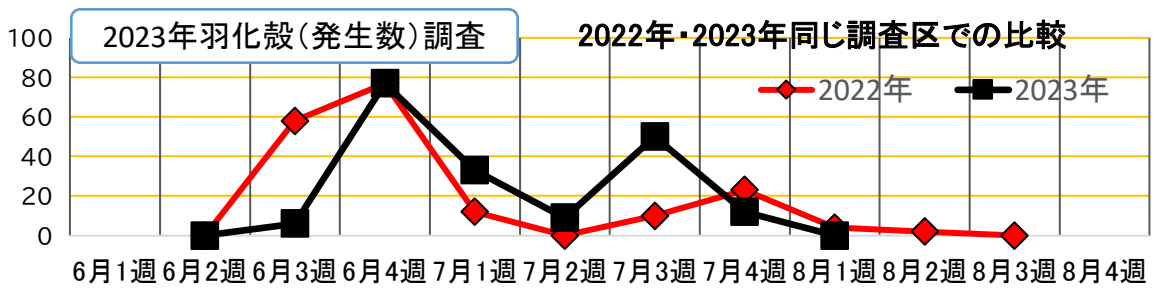
2023年度は、オオキトンボ発生数の推移を把握する羽化殻調査を中心にモニタリングを継続するとともに、地元の河野小学校との観察会を行った。

■調査およびため池管理者への報告

- (1)羽化殻調査 6月第1週～8月第2週、ルート2ヶ所、毎週実施
- (2)産卵調査 11回程度実施
- (3)水位記録 月に2回程度(羽化殻調査や産卵調査の際に撮影)
- (4)3月21日 河野別府区長に2023年度発生状況の報告、2024年ため池への早期貯水の依頼

■河野小学校3年生の授業

- (1)7月11日 生活史説明、終齢幼虫の観察、翌日以降羽化した成虫はリリース(武智、豊田)
- (2)10月16日 ため池にて産卵の観察、質疑応答(武智、豊田)



2. サイエンスカフェえひめ

自主事業として発足当初より開催し、2023年度に40回を迎えた。本年度は「三浦保」愛基金の助成を受け、スーパーサイエンスカフェを2回開催し、通常のサイエンスカフェとしては、2回の開催となった。



第40回 サイエンスカフェえひめ
アカマツ盛衰記

日時 令和5年
5月23日(火)
19:00~20:30

会場 愛媛大学 松山市文京町3番
E.U. リージョナルコモンズ「ひめテラス」1階
※Zoomによるオンライン参加もできます。

対象 自然に関心がある方30人、参加無料

【お申し込み】
お名前、住所(都道府県・市町村・町名まで)、メールアドレス、会場参加/Zoomによるオンライン参加のいずれを希望するか明記し、下記メールアドレスへ。
(個人情報とは適正に管理し、当事業関係のご連絡にのみ使用します。)
NPO法人 森からつづく道
(松山市鉄砲町1-7)
e-mail: info@morimichi.org

【主催】NPO法人森からつづく道
【後援】愛媛大学ミュージアム

◆話題提供 松井 宏光 氏
松山東雲短期大学名誉教授、NPO法人森からつづく道理事長、愛媛植物研究会会長、専門は森林群分類・植物分類地理。1978~1987年と2000~2023年の2回、愛媛県植生図の作成に携わる。

江戸時代、西日本の沿岸付近の低山斜面はアカマツ林に覆われ、マツ材や松葉は炭炊きや製塩・製瓦・製鉄の燃料として里人の暮らしと町の繁栄を支えていた。海岸に植えられたクロマツ林は背後の田畑を飛砂から守り、白砂青松の風景を作った。しかし1970年代以降、松くい虫被害によりマツ林は一挙に衰退。その背景には燃料革命があった。人間に翻弄されたマツ林の盛衰を紹介する。

◆Web申し込み





■第40回 アカマツ盛衰記

【日時】令和5年5月23日19:00~20:30

※会場とオンラインZoomによる開催

【講師】松井宏光(松山東雲短期大学名誉教授、森からつづく道代表、愛媛植物研究会会長)

愛媛県内における江戸期~現在に至るマツにまつわる記録や図絵、聴き取りなどから、人が暮らしや生産活動にマツをどのように活用してきたかを解説。70年ほど前から燃料革命により、人がマツを必要としなくなり、落葉かきなどしなくなったことにより、マツ林が急速に衰退したことなどが説明された。



日当たりの良いやせ地に
芽生えたアカマツ

第41回 サイエンスカフェえひめ

不思議な生きもの、 変形菌の世界



変形菌は比較的小さな生きもののため、森を散策しても見過ごされがちです。しかし、実は森の中にたくさん生息しています！今回は、変形菌の生き様、色々な種類、様々なトピックなどを解説し、その魅力に迫ります。ご一緒に変形菌のワンダーランドを楽しみましょう！

◆話題提供 川上 新一 さん

和歌山県立自然博物館 主査学芸員
大阪府生まれ、筑波大学大学院生命環境科学研究科博士課程修了。博士(生物科学)。専門は粘菌類の分類学。著書に『変形菌-発見と観察を楽しむ自然図鑑』(山と溪谷社)、『変形菌 Graphic voyage』(技術評論社)、『変形菌ずかん』(平凡社)など。監修に『世にも美しい変形菌』(文一総合出版)、『そらいて ぶしぎな 粘菌(森の小さな生きもの紀行1)』(文一総合出版)、『ねん菌(へんけい菌) (菌の絵本)』(農山漁村文化協会)など。

日時 令和6年
2月20日(火)
19:00~20:30

Zoomによるオンライン開催

対象 自然に関心がある方30人、参加無料

◆Web申し込み



【お申し込み】
お名前、住所(市町まで)、e-mailアドレスを、下記e-mailアドレスにお知らせください。
今回は会場に来うかたではなく、Zoomによるオンライン開催です。

お申込みの方にZoom URLを返信します。
(個人情報とは適正に管理し、当事業関係のご連絡にのみ使用します。)
NPO法人 森からつづく道(松山市鉄砲町1-7)
e-mail: info@morimichi.org

【主催】NPO法人森からつづく道
【後援】愛媛大学ミュージアム



①樹木上のスホコリ属の変形菌
②ツノホコリ
③オムラサキホコリ
④ホソエノスカホコリ
⑤クダホコリ未熟体

粘菌は植物でも動物でも
菌類でもない生き物！

近年の分子系統解析により、単細胞のアメーバ細胞を有するグループ「アメーバ動物」に属することがわかっています。

■第41回 不思議な生きもの、変形菌の世界

【日時】令和6年2月20日19:00~20:30

※オンラインZoomによる開催

【講師】川上新一氏(和歌山県立自然博物館主任学芸員)

変形菌の生活史の解説とともに、様々な種類があることが紹介された。美しいものもあり、どのような環境でいつ見ることができるかなど、参加者から質問があり、興味が高まった様子であった。実は身近な存在であることを知ることができ、森林などフィールドでの観察会を期待する声が多く寄せられた。

3. まつやま自然ネットワーク運営(松山市委託事業)

松山市民の自然環境への意識の高揚を図り、環境保全に参画する市民を増やすことを目的とする市の自然環境学習推進業務を受託し、市の環境学習施設「まつやまRe再来館(りっくる)」に拠点を置く「まつやま自然ネットワーク」を運営した。(単年度契約)

【自然観察会】 テーマ/●講師	実施日/場所	参加数
「アジサイの謎と魅力」 ●小澤潤氏(愛媛植物研究会)	6月7日 松山市総合公園 アジサイ園	12名
「公園で秋遊び」 ●小川仁美、坂本典子、武智礼央、須藤三冬 (すべて自然ネットスタッフ)	9月18日 空港通り1・2公園、 りっくる実習室	18名
「野鳥観察 in 道後公園」 ●橋本清一氏(日本野鳥の会愛媛)	1月27日 道後公園	20名
【クラフト】 テーマ/●講師	実施日/場所	参加数
「トンボマグネットを作ろう！」 ●武智礼央、松井宏光(いずれも内部講師)	8月7日 りっくる研修室	大人21、 小人37
「コケリウムを作ろう！」 ●小澤潤氏(愛媛植物研究会)	12月17日 りっくる研修室	22名
【その他イベント】 テーマ/●講師	実施日/場所	参加数
「繭のお話し」※りっくるイベント「衣類とSDGs」 ●武智礼央(内部講師)	6月25日 りっくる研修室	27名
学習会「増加するニホンジカ 共生は可能か？」 ●山本貴仁氏(NPO法人西条自然学校代表)	7月26日 りっくる研修室	38名
島たんけん「中島バスツアー」 ●木室陽一氏(チーム中島)、 小澤潤氏(愛媛植物研究会)	11月12日 中島(ほしふる テラス、神浦海岸、ゆうきの 里、レモン畑)	23名
「知ろう！楽しもう！まつやまの花ツバキ」 ●松井宏光、豊田康二(いずれも内部講師)	2月4日 りっくる研修室	20名
【自主事業】 機会/テーマ/●講師	実施日/場所	参加数
道後みらいクラブ「初夏の自然観察」 ●武智礼央(内部講師)	5月13日 市野外活動センター	大人11、 小人21
松山市立河野小学校3年生総合学習 「オオキトンボのヤゴと羽化の観察」 ●武智礼央、豊田康二(いずれも内部講師)	7月11日 河野小学校被服室	児童29、 教員3
湯山児童クラブ「ちりめんモンスターをさがせ」 ●小澤潤(内部講師)	8月7日 湯山児童クラブ	児童51、 3クラス
松山市立久米小学校6年生理科「人と環境」 ●武智礼央(内部講師) ※出前授業	2月28日 久米小学校	児童94、 3クラス

3. まつやま自然ネットワーク運営(松山市委託事業)

【イベント等実施の効果】

- ・イベント内容としては、子どもたちが楽しんで参加できるプログラム(絵本の読み聞かせや虫探し、トンボのマグネット作り、レモン収穫など)や、大人が興味を持って参加できるプログラム(ニホンジカの食害やツバキ類についての座学、アジサイ園や天然記念物のヤブツバキの巨木の観察など)など、各世代に応じた環境学習を展開することができた。
- ・野鳥の観察やコケリウム・ツバキの種のストラップ作り、里山巡りなどは、幼児から70歳過ぎの方まで幅広い世代が楽しんで参加している様子が見られた。
- ・シカの講演会以外は、どのプログラムも市民が普段から目にするような身近な自然環境から展開していく内容であり、また、3つの小学校や児童クラブで授業も行った。
- ・今まで自然環境に対する知識や経験が少なかったり、興味・関心の低かったりした市民が新たに興味をもち、自然環境の保全につながるような活動を促すきっかけ作りになったと考えられる。



「公園で秋遊び」
ビンゴカードで
いきもの探し!



「コケリウムを作ろう!」
全集中でお気に入り完成



道後公園野鳥観察。ミサゴが出た!
カワセミもじっくり見れました!

【企画展示】 実施期間/テーマ	内容
5月 「5月はバードウィーク」	ポスター5枚(ツバメ類、カラス類、北条地域の夏鳥、冬鳥、留鳥、外来種)
6月 「アジサイの謎と魅力」	ヤマアジサイの鉢植え 写真(松山市総合公園のアジサイ7種)
7月19日～8月31日 「増加するニホンジカ 共存は可能か？」 ※愛媛県石鎚山系生物多様性保全推進協議会共催、NPO法人西条自然学校協力	パネル10枚(県石鎚山系生物多様性保全推進協議会提供)、ポスター3枚(鹿島におけるニホンジカの影響、県内ニホンジカの植生被害状況地図)、シカの頭骨3体(NPO法人西条自然学校提供)、シカクイズ等
9月 「秋の七草まつり♪」	ポスター(フジバカマで吸蜜するアサギマダラの紹介)、写真(七草と解説等)、鉢植え・植物実物展示等
10月 「秋に見られるトンボたち」	ポスター(アカネ属とは?、希少種オオキトンボ等)、トンボの写真、クイズ、トンボ樹脂標本、図鑑・絵本等
11月 「運ばれて広がる種たち」	草の実の実物、ポスター(ドングリの種類・見分け方、くっついて運ばれる種、風で運ばれる種)等
12月～1月 「冬に見られる野鳥たち」	ポスター(冬季に庭や公園で見られる鳥、ため池で見られる鳥等)、実物の羽根展示、鳥の重さ比べ、等
1月27日～2月29日 「ツバキ 松山市の花をもっと知ろう!」	市総合公園のツバキ28種の写真、実物20種展示、ポスター(子規にまつわるツバキ、お杖椿紹介)等
3月 「春の野草を知ろう」	ポスター(ホトケノザ、春の野草48種、春に見られる昆虫等)、実物の草花の鉢植え(スマレ、ツクシなど)等

3. まつやま自然ネットワーク運営(松山市委託事業)

【施設見学】 団体等/●担当	実施日/場所	参加数
松山市立正岡小&河野小4年生 ●武智礼央、小川仁美(いずれも内部講師)	8月7日 りっくる展示スペース、 ビオトープ等	80名 程度

「島たんけん@中島」
磯の生きもの探し中!



「まつやまの花ツバキ」
種のストラップ作りに挑戦!



展示「増加するニホンジカ
共生は可能か?」



【SNS情報発信】 テーマ	件数	閲覧数
Fb 身近な生きもの情報!	145	16,049
Fb 自然科学の本棚	24	2,109
Fb お庭のハーブ日誌	13	1,127
Instagram 生きものフォト ※フォロワー数	173	※215

1月21日「まつやま
環境フェア2023」
パネル展示やおす
すめ絵本の紹介、
最近話題の生きも
のに関するクイズ
などを実施。水生
昆虫の生体展示が
人気でした!



4. 生物多様性と持続可能な地域づくりを展望するスーパーサイエンスカフェとエコツアーの実施 令和5年度愛媛県「三浦保」愛基金助成事業

(1)スーパーサイエンスカフェ「里地・森林を活かし受け継ぐために」

第1回 身近な自然の魅力・課題を共有する機会づくり、手法

【日時】令和5年9月17日(日)13:30~16:00

【会場】愛媛県生涯学習センター研修室2・3、オンラインZoom

【従事者数】4名、講師2名

【参加人数】会場参加:愛媛県内23名、オンライン:全国20名

■講演「身近なキセキに会いにいこう! ~生命の多様性にであう森の散歩~」

横山昌太郎氏(博士(農学)/森林インストラクター)

■事例報告 特定非営利活動法人由良野の森 理事 藤江直子氏

■意見交換・交流

(2)スーパーサイエンスカフェ「里地・森林を活かし受け継ぐために」

第2回 地域資源を活用する事業の創出による、持続可能な地域づくり

【日時】令和5年11月19日(日)13:30~16:00

【会場】愛媛県生涯学習センター研修室2・3、オンラインZoom

【従事者数】4名、講師2名

【参加人数】会場参加:愛媛県内20名、高知県大月町3名、オンライン:全国18名

■講演「地域と自然の両方が賑わう、里山との新しい関係づくり」

白川勝信氏(登別市観光交流センター「ヌプル」学芸員)

■事例報告 特定非営利活動法人西条自然学校 理事長 山本貴仁氏

■意見交換・交流

4. 生物多様性と持続可能な地域づくりを展望するスーパーサイエンスカフェとエコツアーの実施 令和5年度愛媛県「三浦保」愛基金助成事業



第1回横山さんによる講演



第1回藤江さんによる事例報告



第2回講師：白川さんと山本さんが参加者からの質問に回答中

(3) エコツアー「希少種・オオキトンボの産卵観察とブナの森・高縄山散策」

【日時】令和5年10月29日(日)10:00～15:30

【実施場所】北条ふるさと館(松山市河野別府995)＝田村池(河野地区)＝高縄山(松山市高縄山総合作業施設～高縄寺～山頂展望台)＝北条ふるさと館(＝ジャンボタクシー2台で移動～徒歩で散策)

【従事者数】5名、高縄山ガイド4名

【受益対象範囲、参加人数】愛媛県内21名

【内容】

■オオキトンボの里づくり動画視聴、当日プログラム説明等

■オオキトンボの産卵観察(田村池)

■高縄山 松山市高縄山総合作業施設 昼食(北条鯛めしと地元食材を使った弁当)

～高縄寺～山頂展望台 自然観察をしながら散策



【成果等】

・(1)～(3)のいずれにおいても、参加者アンケートでは「たいへんよかった/たいへん満足」との回答をほぼ7割の方からいただき、記述の回答からも得るものが多かったことがうかがえた。

・スーパーサイエンスカフェにおいては、全国でも先進的な知見や経験を有する講師を招聘し、自然観察を通して多様な生き方・働き方を肯定する考え方を伝えることを学んだり、地域資源の活用により地域を活性化する事例から「里山保全と経済活動、教育活動は両立できる」という視点を得たりすることができた。

・えひめ森の案内人会、(特非)西条自然学校、(特非)由良野の森など、森林・里地の環境保全に関心を持つ団体・個人の協力を得て企画を構成し、参加者募集にも協力を得ることができ、アンケート結果も共有した。

・会場のみでなく、オンラインZoom参加も可能としたことにより、松山市外や県外からの参加も得ることができた。また、講演と事例報告の部分はYoutubeで視聴できるようにした。

5. 「愛媛・南予の柑橘農業システム」農業生物多様性等調査・研究業務

「愛媛・南予の柑橘農業システム」は2019年度に日本農業遺産に認定された。愛媛県では2022年度に世界農業遺産に申請したが、「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」との競合により国内審査で不採択となった(有田は採択)。そこで愛媛県では2023年度に「柑橘」を表に出さず「宇和海沿岸の急傾斜地における農業と漁業が育んだ景観形成・保全システム」として再度申請準備をすることとなった(申請は2026年度を目標)。

2023年度は、愛媛県農政課より当団体に対して、宇和海沿岸の急傾斜地石積み農業の農業生物多様性の有効性と同農業の歴史と沿岸漁業との関係等についての基礎的資料の作成が委託された。調査は宮本春樹氏、徳岡良則氏、橋越清一が行い、松井宏光が検討会の企画・現地説明会・報告書作成を行った。報告書の表題は以下のとおりである(一部割愛)。

- ① 江戸時代の段々畑 高山浦絵図
- ② 段々畑の土地改良と柑橘園化 九島地区
- ③ ミカン園地の調査報告[川上・真穴・三瓶地区][宇和海最北端][向灘柑橘園地][川上地区][伊方町][宇和島市下波柿ノ浦地区]
- ④ 西予市明浜町狩浜におけるクサラカシ(魚肥)利用と現在の有機栽培
- ⑤ 愛媛県におけるミカン栽培の始まり
- ⑥ 多品種柑橘周年栽培について
- ⑦ 宇和海沿岸の段畑と沿岸漁業が育んだ文化的景観
- ⑧ 「宇和海沿岸部の急峻地における農業と漁業が育んだ景観形成・保全システム」 試案
- ⑨ 宇和海のランドスケープの特徴 みかん畑・石垣集落・石積み
- ⑩ 宇和島市三浦地区における真珠母貝養殖・柑橘兼業家について
- ⑪ 柑橘栽培160年の歩み 立間地区
- ⑫ 黒潮と魚付き林の恵みを生かした宇和海沿岸の農漁業
- ⑬ 有機栽培を行う狩浜沖村家の経営報告

⑭ 狩浜(西予市明浜町)鳥類調査報告
(概要) 狩浜の生態系において上位の消費者としてサシバ、ノスリ、ミサゴ、オオタカ、ハイタカ、ツミ、ハヤブサといったタカ類が確認され、狩浜の生物多様性が豊かであることが推定できた。

⑮ 狩浜(西予市明浜町)における冬期のノスリ
(概要) ノスリ、ミサゴ、オオタカ、ハイタカ、ハヤブサといったタカ類が記録された。このことから、ノスリ、オオタカ、ハイタカ、ハヤブサについてはミカン園地やその周辺が餌場となっている可能性が高いこと、ミサゴや渡りのノスリにとっては段畑や急傾斜地による滑昇風(斜面上昇風)により上昇を容易にし移動に利用していることが推察された。

⑯ 狩浜(西予市明浜町)におけるサシバの繁殖記録
(概要) 今回の調査で、繁殖期にサシバが餌運びを行ったり、巣立ちした幼鳥が確認されたり、巣があったことから、狩浜のような海岸に面したミカン園地近くでもサシバが繁殖していることが確認された。

⑰ 宇和海沿岸の段畑および居住地の石垣に生育する植物の種多様性評価
(概要) 全体のフロラの特徴としては、周辺の森林内にも見られる樹木の若齢個体として、アコウ、イヌビワ、タブノキ、ヒサカキなどが見られ、つる植物ではオオイタビ、テイカカズラ、キツタなどが見られた。耕地雑草では、ホトケノザ、ムラサキカタバミ、ヤエムグラ、スズメノエンドウなどが多く見られ、シダ植物ではイノモトソウ、トラノオシダ、オニヤブソテツなどが多く見られた。



ミカン園地を飛ぶノスリ



サシバの幼鳥



イヌフグリ

6. その他必要とする事業

■風早にぎわいレトロまつり出店

【日時】令和5年11月26日(日)9:30~15:00

【会場】河野別府公園

動物フィギュアを使ったジオラマ、ドングリトトロ、ツバキの実のストラップ、トンボマグネットなど、クラフト工作づくりを提供した。好天で来場者が多く、いずれも完売となった。親子で自然素材を活用した作品づくりに挑戦し、お気に入りの作品を完成させて大切に持ち帰っていた。昨年度まで風早活性化協議会が担っていたイベントであり、後継の風早まちづくりネットワークからの案内を受けて参加した。



Ⅲ. 組織運営

1. 意思決定

事業の企画申請にあたっては、それぞれの事業に関係する会員が打ち合わせを行った。松山市環境学習施設である「まつやま自然ネットワーク」の企画運営においては、毎週水曜日午前中に2時間程度、スタッフ間の打合せ・進捗状況の確認を行い、各種事業実施を円滑に行った。

2. 情報発信

【HPによる発信】

HPにおいて、「サイエンスカフェえひめ」、「スーパーサイエンスカフェ2023」などの告知を行った。また、引き続き、生きものの活動を紹介することによって、生態の面白さを知り、季節の変化を感じてもらう目的で「生きものごよみ」の発信を行った。

■掲載回数

生きものごよみ	22
オオキチくん通信 ※2023年4月号で終了	1
サイエンスカフェ	3
スーパーサイエンスカフェ&エコツアー	3
その他 (Youtube案内、三浦保環境賞受賞)	3
Fbによる告知等	12



いきものごよみ「ノスリと目が合った！」
2024年1月30日@高茂岬(橋越氏)

【チラシの作成】

「サイエンスカフェえひめ」、「スーパーサイエンスカフェ2023」等イベントの告知にはチラシを作成し、まつやまNPOサポートセンター、愛媛県生涯学習センターなどに設置した。

3. 三浦保環境賞大賞受賞

愛媛県内において、環境保護活動を続けている個人または団体を紹介するとともに、特に優れた活動を表彰することで、愛媛における環境活動の普及・発展に寄与することを目的とする三浦環境賞。第20回となる2023年度の大賞に、当団体の「オオキトンボの里づくり」を選定していただきました。

